

2.4.6 摩擦係数

2.4.6.1 試験機および試験条件

- 試験方法 : JCBA T311 ; 2001(仮) (銅および銅合金板の動摩擦係数測定方法) に準拠
平滑部と径 3mm、高さ 1mm の半球突起部(インデント)間の摩擦係数測定
(図 6.1 参照)
- 錘の荷重 : 0.98N(100g)、4.90N(500g)、9.80N(1000g)、
- 摺動速度 : 80mm/min
- 摺動距離 : 10mm
- 試験材料 : C2600-H と C5210-H の裸材とリフロ-Sn めっき材
- 試験方向 : 試験材料の摺動方向は平滑部裸材が圧延方向に平行方向(L.D.)と
直角方向(T.D.)とし、Sn めっき材平滑部と半球突起部(インデント)は全て
圧延方向に平行方向(L.D.)とした。
- 試験片数 : n=2 (測定結果は n=2 の平均値とする。)

表 6.1 試験材料の組合せおよび初期表面粗さ

組合 わせ	半球突起 (インデント)	平滑部		表面粗さ Ry(μm)			
		表面状況	方向	C2600		C5210	
				L.D.	T.D.	L.D.	T.D.
A	裸	裸	L.D.	1.16	1.08	1.08	0.84
B	裸	裸	T.D.	/	/	/	/
C	裸	Sn めっき	/	/	/	/	/
D	Sn めっき	裸	/	/	/	/	/
E	Sn めっき	Sn めっき	/	0.19	0.45	0.25	0.38

注：表面粗さは平滑部の測定値を示す。

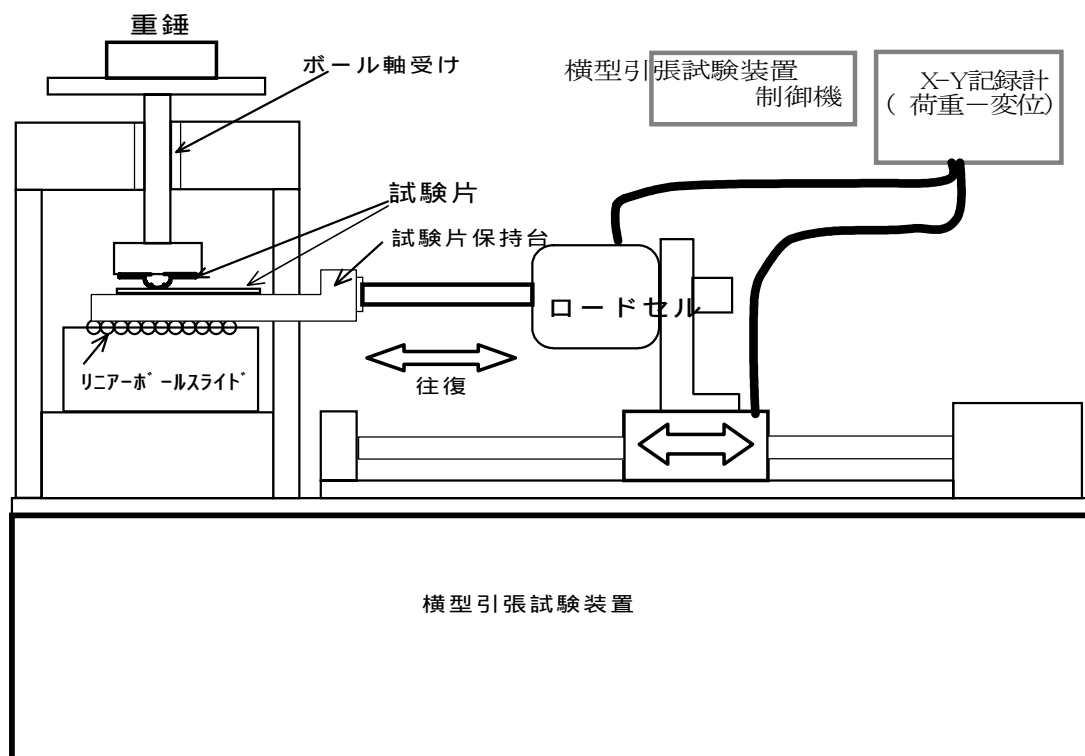


図 6.1 動摩擦係数測定装置概要